

2003年度(平成15年度)第2回理事会記録

日時: 2003年3月31日(月) 15:00~17:00

場所: アクロス福岡5階「501会議室」

出席者: 廣川信隆(理事長)、猪口哲夫、河田光博、高田邦昭、山科正平(以上常務理事)、近藤尚武、塩田浩平、杉浦康夫、瀬口春道、仙波恵美子、高野吉郎、田中重徳、村上宅郎、村田長芳(以上理事、但し、近藤、杉浦両理事は途中から参加)、上田秀一、内山安男(以上監事)、依藤宏(幹事)、小森雄一郎(学会事務センター)

陪席: 吉塚光明 第108回解剖学会総会・全国学術集会副会頭

欠席者: 井上芳郎、佐藤達夫、野条良彰(以上理事) (上記各項目五十音順)

・理事長挨拶

解剖学会全国学術集会在、学会活動としては本日から始まるうとし、多数の一般演題の他、学会のかかわる教育、研究、再生医学と献体など多数のすばらしい企画が盛り込まれている。猪口会頭、吉塚副会頭、プログラム委員会・実行委員会の方々に感謝したい。来年には国際解剖学会議開催を控え、その準備も井出組織委員長をはじめ、諸先生方の努力で着々と進んでいる。この解剖学の分野は国際的にも日本がリードしている分野であり、それを示す良い機会でもある。学会誌の刊行については英文誌は千葉編集長、井出副編集長及びeditorial boardの方々の努力とそれをバックアップしてくれている解剖学会の皆様方の力で出版補助金を文部科学省から受けることができ、会計面で大きくプラスになっている。今後、一層の発展と補助金の増額を願っている。学会会計の面では山科会計担当理事に種々の努力をして頂いており、感謝したい。学会をとりまく環境としては国立大学の法人化、国の研究費予算の動向など流動的である。後者では基礎科学への予算は総額としては伸びているがその多くがtop-down型の重点政策の方に流れている。私は基礎的な研究の方への配分を増やすよう努力はしているが、今後一層のはたらきかけは必要であり、決して予断を許す状況ではない。理事の諸先生方にも学会の発展に向け益々の努力をお願いしたい。

・猪口哲夫第108回解剖学会総会・全国学術集会会頭挨拶

今回の第108回総会・全国学術集会は久留米大学でお世話することとなり、よろしくお願ひしたい。シンポジウムの企画、抄録の記載様式の変更、ポスター発表の一般演題座長の廃止、評議員会と総会の同時開催など種々の工夫をした。順調に進行することを願っているが、至らない点のご指摘頂きたい。

・議事録署名人の選任

議事録署名人として村田長芳、高野吉郎両理事が選出された。

・前回会議記録の確認

2003年度第1回理事会(2003年2月22日開催)の会議記録が承認された。

・報告事項

1. 日本学術会議第19期会員候補、同推薦人及び推薦人予備者の選出について

選挙管理委員会(委員長大河原重雄自治医大教授)による「日本学術会議第19期会員候補者」選出選挙結果およびそれに基づき得票数第1位の井端泰彦京都府立医大学長を解剖学研究連絡委員会における解剖学会からの候補者とする。推薦人には廣川信隆理事長が、同予備者には

猪口哲夫常務理事があたることが報告された。なお、人類学・民族学研究連絡委員会については解剖学会からは会員候補者は出さず、推薦人として金澤英作日本大学松戸歯学部教授、馬場悠男国立科学博物館部長、推薦人予備者として石田英實京都大学教授を推薦することが報告された。

審議事項

1. 2004年（平成16年）度科研費審査委員候補者選出の件

選挙管理委員会（委員長大河原重雄自治医大教授）による選出選挙結果が報告された。2004年度科研費審査委員候補者推薦に関しては未だ学術会議からの正式依頼がなく、平野寛解剖学研連委員長より、2003年3月28日現在、日本学術会議からの正式な推薦依頼が研連宛に届いていない。

解剖学会として、解剖学一般の第2段審査については昨年より2~3名上乘せをした数の、それ以外は昨年度と同程度の数の候補者を用意しておいて頂きたい。の2点の口頭連絡を受けているのみである。しかし例年、科研費審査委員候補者推薦に関しては学術会議からの連絡から締め切りまでの期間が短く、正式連絡を受けてからでは理事会に諮る時間的余裕がないことが予想されるため、事前の候補者リスト案の作成が提案され、常務理事会案が提示、審議の上承認された。科研費審査委員推薦については学術会議の改組問題との関係で突然大きく変更される可能性もあるとのことで、学会としては上記のように事前に進めているが、候補者の人数構成等が現在の予想と変わり、推薦締め切りまでに時間的余裕のない場合には、最終的には常務理事会および理事長に一任するということが承認された。

2. 「日本解剖学会『文部科学省科学研究費補助金審査委員候補者選挙に関する内規』」一部改訂について

従来の科研費審査委員候補者選出選挙については投票率が低いこと、手続きが煩雑であることなど改訂が必要との考えから、推薦委員会が原案を作成、常務理事会で改訂を加えた案が理事会に提案され、審議のうえ承認された。改訂案の要点（下線部）および手順は以下のごとくである。

全学術評議員による審査委員候補者適任者の推薦：学術評議員1人につき、解剖学一般、神経解剖学合計3名まで推薦可とする。なお、推薦方法は氏名のみ（推薦理由は記載不要）の記載とし、記名投票とする。選挙管理委員会による推薦書の集計：学術評議員2名以上ないし理事（1名）の推薦を受けたものを「審査委員適任者」として推薦委員会に報告。「推薦委員会」開催：推薦集計結果をもとに解剖学一般40名、神経解剖学15名、合計55名、場合によってはこれに委員会独自の10名までを追加、合計最大65名の「候補者」につき、順位を付けて理事長に推薦。

理事会による最終候補者の決定。

3. 奨励賞関連規程の一部改訂について

奨励賞選考委員会寺島俊雄委員長（神戸大教授）の提案をもとにまとめた改訂案につき審議がおこなわれ原案どおり承認された。

4. 日本解剖学会動物実験指針（案）の件

学術委員会（委員長 柴田洋三郎九州大教授）作成の指針を常務理事会において一部改訂した案が提案され、承認の上、総会に諮られることが決定された。

5. 2002年（平成14年）度事業及び業務監査報告の件

学術集会開催状況 会議開催状況 学会誌刊行状況 委員会報告 研究の奨励および業績の奨励 内外学術団体との協力ならびに連絡 技術士認定 以上の各項目につき資

料をもとに説明・審議がおこなわれ、いずれも特に異議はなく承認された。

6. 2002年（平成14年）度決算及び会計監査報告の件

前回理事会において既に承認を受けた標記の件につき、最終確認がおこなわれた。

7. 2003年（平成15年）度予算及び業務計画の件

2003年（平成15年）度予算案につき、最終確認がおこなわれた。また2003年（平成15年）度業務計画につき、資料をもとに説明がなされ、審議ののち承認された。

8. ASIのeditor-in-chiefの件

千葉胤道千葉大学教授の退任に伴い、井出千東京都大学教授が後任として承認された。